

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102914
法人名	特定非営利活動法人グループホームしいのみ
事業所名	グループホームしいのみ
所在地	松山市緑町一丁目7番15号
自己評価作成日	平成27年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年9月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「認知症介護」それは何か特別なことをしているわけではなく、少しだけできなくなったことが</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>よく利用する近所のコンビニエンスストアでは 利用者が出入りしやすいように店員の方が先にドアを開けてくれたりする。又、八百屋の方とも顔なじみになっており、よく話しかけてくれて利用者は会話を楽しみながら買い物をしている。</p> <p>ご家族には、毎月、利用者の様子や行事時の写真に手紙を添えて送付している。送付する写真は、笑顔の写真を選ぶようにしており、時には、利用者ご自分で選んだ写真を送付することもある。ご家族来訪時には、一緒に写真を撮り、「今日はありがとうございました。また、お越しくださいね」と職員が手書きのメッセージを添えている。ご家族からは、「美容室に髪を染めに連れて行って欲しい」「衣替えをしてほしい」等と要望があり、事業所に対応している。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームしいのみ

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

大西英之

評価完了日

27年 9月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 月例会議で職員間の意見を交換して、理念を作成する。利用者の方々との接し方や地域の方々との理解に役立っている。 (外部評価) 事業所は「ゴソゴソの自由」と理念を掲げており、管理者は、月例会議時等に、利用者が自分の家のように過ごしてもらえよう支援することや、「見守り」「待つ」ことの大切さを職員に話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事には職員と利用者の方が積極的に参加し、散歩や買い物に出掛ける時には挨拶を欠かさないようにしている。 (外部評価) よく利用する近所のコンビニエンスストアでは 利用者が入りやすいように店員の方が先にドアを開けてくれたりする。又、八百屋の方とも顔なじみになっており、よく話しかけてくれて利用者は会話を楽しみながら買い物をしている。管理者は今後、事業所に「訪ねて来てくれる地域の方をあらたに増やしたい」と考えており、「若い世代の方とも交流したい」と話していた。地域行事への参加等からきっかけを作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 実際にホーム内であった出来事を運営推進会議で説明し、理解を求めたり、こんなことはこうすれば良いなど支援方法を話したりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)	
			(外部評価)	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			(外部評価)	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や日々の業務で虐待の具体的な例を挙げて話し合い勉強を行っている。虐待防止について理解を深め、発生防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員は、勉強会、講習会等があれば積極的に参加し、有識者の方から新しい制度について知識を深め対応できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族様とは面会や電話連絡を通じて不安や疑問の解決に迅速に対応できるようにし、十分な理解と納得が得られるよう努めている。書面にし、文章でも郵送して理解をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の方々の生活はご家族様からは面会や電話、手紙連絡を通じて意見や要望をいただいている。その際は真摯に対応できるよう努めている。	
			(外部評価) ご家族には、毎月、利用者の様子や行事時の写真に手紙を添えて送付している。送付する写真は、笑顔の写真を選ぶようにしており、時には、利用者をご自分で選んだ写真を送付することもある。ご家族来訪時には、一緒に写真を撮り、「今日はありがとうございました。また、お越しく下さいね」と職員が手書きのメッセージを添えている。半年程前から、申し送りノートを使って情報伝達をしており、利用者やご家族の要望を記入して確認したらサインする仕組みを作っている。ご家族とのやりとり等もスムーズにできるようになったようだ。ご家族からは、「美容室に髪を染めに連れて行って欲しい」「衣替えをしてほしい」等と要望があり、事業所で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月例会議や、個別面談等で、職員の意見を聞き、問題の改善にあたっている。提案、要望等があった場合には十分に話し合いを行ったうえで反映できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			転倒の心配がある利用者について、職員の提案で滑り止め付き靴下を使用してみる等、職員で話し合いながらケアに取り組んでいる。職員は、月1回の法人内研修と希望に応じて外部研修を受講して、スキルアップに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の日々の勤務状況の報告を受け、無理のない勤務環境の改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			ベテラン職員が新人職員の育成にあたり個々に指導している。外部の研修にも積極的に参加し、研修後には職員間で発表、検討し、知識を深めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			愛媛県ケアプラン研究会や他事業所の行事(お祭りや演奏会)に参加し横のつながりを大切にして、コミュニケーションを深め、情報交換をしたりして、サービスの質の向上に努めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事業所内の雰囲気慣れて頂き利用者様の話に傾聴し、何を必要としているか理解し、安心して生活できるような関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様が面会に来られた時は困っていることや不安なこと等話し合っている。ご家族様の話の中にケアプランのヒントが多いにあるので積極的にお話を聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時は特に本人様やご家族様の意見や、必要とされていることを聞きだし、それを優先して生活して頂く。過去の生活歴の把握に努め、慎重に笑顔で気持ち良く過ごせるように心をくわしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事、出来ないことを見極めたうえで出来ることは自分でしていただくよう積極的に声掛けし、なるべく一緒に物事を進め、難しそうなのはさりげなく手助けをし一緒に生活できるよう心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様の面会はとてもうれしい事なので、また来ていただけるように、積極的に挨拶をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 日頃の会話の中から、本人様の馴染みの場所や人を聞き出し昔からよく買い物に行っていたところへ一緒に出掛けている。顔見知りの近所の方は気軽に声かけしていただいている。 (外部評価) 補聴器を利用している方は、数ヶ月に1回メンテナンスに職員が付き添っている。以前から利用していたお店でもあり、ご本人は「懐かしいね」「ここにいつも行きよったんよ」と話されるようだ。以前、地域の盆踊り大会に出かけた際、昔の友人と再会して、それがきっかけで時々会いに来てくれるようになったようなケースがある。知り合いの方の来訪時には、居室へ案内したり、お茶を出して、ゆっくり過ごしてもらえよう気配りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の関係は生活スタイルを崩すことのないよう、それぞれのペースに合わせている。トラブルが生じた時は職員が間に入りコミュニケーションがうまくはかれるよう声掛けし、支えあえるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される利用者様のケアとして、今後の相談にも応じたり、手紙を書いたり、病院に入院された利用者様にはお見舞いに行ったりして力になれることはないか努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人1人の生活歴を把握し、本人様のやりたいこと(例えば買い物など)一緒にできるよう努めている。また、ケアプラン作成時には本人様の絵を描いたりして、職員がより理解しやすいようにしている。	
			(外部評価) 日々の会話の中から希望を聞き取れるよう、職員は利用者のお話にじっくり耳を傾けている。得た情報は、介護記録に記入して他職員と共有できるようにしている。ご家族に介護計画を説明したり、ケアについて希望を聞くような折には、ご家族は利用者の以前の暮らしぶりや若い頃のことについて話してくれるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様やご家族様に関わる範囲で過去のことや身の周りのことなどをヒアリングし理解に努める。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様同士の関係は生活スタイルを崩すことのないよう、それぞれのペースに合わせている。トラブルが生じた時は職員が間に入りコミュニケーションがうまくはかれるよう声掛けし、支えあえるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>申し送りで日々の気づきを共有したり、月例ミーティングで職員全員の意見を持ち寄り話し合いケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画の目標は、優先順位をつけ、課題を一つに絞って挙げており、3ヶ月に1回見直しをしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>誰が見ても分かるように日々の様子を日誌に記録している。利用者様の状態変化に目を向け朝夕の申し送りで情報を共有している。往診や訪看時に測ってもらったバイタルを見やすい表にまとめパソコンにも残している。その情報を職員間で共有し、実践したり話し合ったりして計画の見直しにつなげている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人様、家族様から要望があれば、柔軟に迅速に対応させていただいている。送迎や車いすの貸し出しも行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域密着型のホームを目指し、地元・地域でのイベント等の参加を積極的に行っている。挨拶等、自然な交流も忘れないよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に主治医・かかりつけ医の希望をお伺いし、本人様・ご家族様が希望する医療機関を利用している。専門病院受診時には、管理者が同行し状態を伝え、適切な医療を受けることが出来るよう支援している。日、祝日以外はホームの主治医に往診に来ていただき、ケアにつながるようアドバイスして下さっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>主治医は往診のため毎日来られるため、他利用者の様子等も知ってくれている。利用者の心身の状態の変化や異常があった場合は、すぐに連絡して相談している。他科受診にご家族が対応した場合、管理者は受診結果等を確認して主治医に報告している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>週一回訪問看護事業所より看護師に来てもらいバイタルチェックを行っている。職員は日々の利用者様の様子や状態を伝えたくて相談をしたり、ケアの仕方を教わったりできる関係が築かれている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入退院時は、主治医からの紹介状や情報提供書により情報交換を行い、管理者が本人様・ご家族・医療関係室と密に連絡をとりながら一日でも早くホームに戻って頂けるよう関係作りを行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>24時間医療が必要となった場合は、管理者がご家族様と話し合い、事業所で出来ることを説明し、ご理解いただけるように努めている。また、主治医とご家族様との話し合いができる機会を設け、主治医の連携病院と共に支援している。職員間では看取り支援に備え、緊急時や、夜間の急変時の対応マニュアル化について話し合いを重ねている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時、事業所の「看取りに関する指針」を説明し、利用者・ご家族に終末期のあり方の希望を聞き取っている。実地指導時の内容を参考にして、「重度化時対応希望書」を作成して、より明確に希望を把握できるようにしている。現在、半数以上の方が、事業所で最期まで過ごしたいと希望しているようだ。最近でも看取りを支援した事例があり、職員はできるだけ一緒に過ごす時間を作り支援した。他利用者も居室を訪れ寄り添われた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 不定期ではあるが勉強会を行い、マニュアルも作成している。社内研修に取り上げたり、外部の研修に参加したりして知識や実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 近隣協力員に依頼し、災害時の避難場所等の確認と協力を話し合っている。ホームの避難訓練にも地域の方に参加してもらったりしている。	災害が発生しても利用者や職員の安全を守れるよう、日頃から安心安全を意識して環境整備に取り組んでほしい。運営推進会議等を活かして利用者やご家族、地域の方とともに対策について考えてみてはどうだろうか。
			(外部評価) 毎月、火災を想定し、おもてまで避難する訓練を行っているが、職員は「緊張感がなくなってきている」と感じており、「方法等を検討したい」と話していた。地域には、「災害協力員」が数人おり、災害発生時には応援に来てもらえるよう依頼している。8月の避難訓練では、消防署の立ち合いのもと、通報する場面から訓練を行ったが、職員からは、「あせって事業所の位置を的確に説明することができなかった」「アタフタしてしまった」等の反省点も出たようだ。地震時、タンス等が倒れないように対策することは今後の取り組みとなっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人ひとりに対応できるよう職員間で申し送りを行っている。	
			(外部評価) 建物上、脱衣場がないため、入浴時は、浴室前の廊下をロールカーテンで仕切って脱衣所スペースを確保している。利用者のペースで生活できるよう支援しており、それぞれの起床時間等に合わせて支援している。調査訪問時には、職員が利用者に昼食の声かけをすると、ひとりの方が「もう少し休んでから」と答えられて、少しあとから支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の生活ペースを大切に、支援できるよう心掛けている。うまく表示できない利用者様には簡単な選択を求め、表情や意思をくみとっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 可能な限り一人一人の希望を聞いて対応したり、個々のペースに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人様と相談して着る服を準備したりして支援している。外出する時やお祭り等行事の日には化粧やネイル等、普段しないメイクをし、特別感が出るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の出来る事できないことを大切にして、準備や片づけをしてもらい、楽しく食事ができるよう支援している。	
			(外部評価) 旬の食材を採り入れて事業所で食事作りをしている。居間と台所の距離が近く、利用者が職員に「何しよるん」「何かしようか」と声をかけるようなこともよくあり、一緒に調理することも多い。又、職員は利用者の体調や様子を見ながら、米とぎや野菜の皮むき、和え物を混ぜる、配膳等をお願いして食事にかかわる場面を作っている。昼食は、少し多めに作っておき、お替わりの希望に応じたり、ご家族の来訪時に一緒に食事ができるようすすめている。利用者それぞれにご自分用の箸があり、食事の前には利用者が配っている様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 日誌・パソコンに食事量を記録しており、栄養及び水分摂取量はおおむね把握できている。場合に応じ、主治医・看護師から助言をもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨きのできる方は自身で行っていただき、入れ歯のある方は洗浄の支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) オムツや紙パンツは、なるべく使用しようにしている。個人の状態に応じてポータブルトイレを使用したり、声掛けをしてトイレ誘導し、自立に近づくよう支援している。</p> <p>(外部評価) 入居前は、紙パンツにパッドを使用していた方について、排泄の自立に向け支援しているケースがある。入居間もない頃は、トイレの場所が分からず迷うような様子が見られ、職員はその都度、トイレ誘導して支援することを続けた。ご自分でトイレに行くことができるようになった頃に、職員の「パット等はなくても大丈夫ではないか」という気付きがあり、現在は布パンツで過ごせるような支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 食事量や水分量に気を配り、散歩や室内運動等に気を配っている。それでも解消されない場合には医師に相談したりして対処している。また毎日排便記録をとり、職員が毎日チェックしやすい記録日誌の一番前に綴って全員が把握できるようにしている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 自立できている方は、自由に入浴していただいている。見守りが必要な方、介助が必要な方には職員が介助している。</p> <p>(外部評価) 利用者個々に週2～3回入浴できるよう支援している。湯温は個々の希望を聞きながら合わせている。入浴時間帯は、希望等にも合わせて支援しており、昼間入る方、夕食後入る方、好きなテレビ番組を見てから入る方等がいる。シャンプーはお気に入りのものを使用する方もあり、残り少なくなった頃に一緒に買いに行っている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 自室で休まれている時は、ゆったりと静かに過ごせるように、1人1人の希望や状況に合わせて支援している。消灯時間や起床時間を定めることなく利用者様1人1人の希望や状態に合わせた支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は管理者が管理しており、服薬支援、症状の変化を申し送り等で職員に連絡している。症状の変化があれば日誌に状態を記入し、必要に応じて管理者に連絡を入れている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 1人ひとりの生活歴を把握し、掃除、洗濯、料理等、個々の日常生活の中で得意なことを聞きだし、その日の気分や体調に応じて日々の生活の中で出来ることを見つけ支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 花見や秋祭り等、地域の行事に積極的に参加している。また、個人の要望に応じて、職員が付き添い散歩やスーパーへの買い物等、日常的に行っている。	
			(外部評価) お天気がよい時は、よく散歩をしている。街の中に立地している事業所でもあり、歩いて買い物や市役所に書類を提出に行ったり、クリスマス時期には、街中のイルミネーションを見に行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭面については、今のところ管理できる利用者様がないため所持はしていない。買い物の時には職員が同行し、相談しながら買い物を楽しまれている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望がある場合は職員が支援している。毎月ご家族様には本人様の日頃の様子をカメラで写した写真とお便りを添えて送付している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内では季節の草花を生けたり、利用者様が好まれる音楽を流したり、玄関には良い香りのする芳香剤を置いてしている。各居室には個族の写真や思い出の品を置いて居心地良く過ごしていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、テーブルには、近所の方からいただいた彼岸花やすすきを生けており、職員が「これ何ていう花かご存知ですか?」と聞くと、利用者が「彼岸花やね」「もうそんな季節なんやね」と答えていた。大きなテーブルを囲むようにソファを配置しており、利用者は腰かけてテレビを見ながらくつろいでいた。日によっては、共用部分で通所サービスを行っており、通ってくる方のことを楽しみにする利用者もいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>談話室には数人が一緒に掛けることのできる大きなソファと、1人掛けソファがあり、各自好きな所へ座っていただけるようにしている。疲れたら各自の部屋に入って一休みしたりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>各利用者様の居室にはご本人様が持って来られた写真や家具、人形などを置いて居心地良く過ごして頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自宅で使っていたタンスを持ち込んでいる方や、ご家族来訪時に撮った写真を飾っている方もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様が自由に会談を上り降りができるように手すりをつけ、会談には最後の段が分かるように色つきのビニールテープを貼っている。トイレや浴室には分かりやすいように張り紙をしている。</p>	